

CentreCOM® 9812T/9816GB リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書 (J613-M6933-00 Rev.A) とコマンドリファレンス (J613-M6933-01 Rev.F) の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。


最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl06 (2.6.2-06)

2 本バージョンで追加された機能


ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl01 から 2.6.2 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6」(Rev.F) をご覧ください。

2.1 Rapid STP : エッジポートにおけるループ検出機能

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」


Rapid STP のエッジポートでループを検出した場合に該当ポートをディセーブルにする機能が追加されました。ループ検出によってディセーブルとなったポートは、SHOW STP PORT コマンドの「RSTP Port Role」欄が「Backup (Loopback Disabled)」に、「State」欄が「Discarding」になります。また、同コマンドの表示項目に、ループ検出回数を示すカウンター「Loopback Disabled」が追加されました。

2.2 ENABLE/DISABLE IGMP ALLGROUP コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

IGMP/IGMP Snooping 使用時、All Group への所属可否をポートごとに変更できるようになりました。デフォルトでは、ルーティングプロトコルパケット (RIP、OSPF など) を受信したスイッチポートは All Group 所属となり、同ポートにはすべてのマルチキャストパケットが出力されますが、この動作が望ましくない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドでポートが All Group 所属にならないよう設定を変更できます。

2.3 IGMP Snooping の機能拡張


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

IGMP Snooping に関するパラメーターを拡張し、SET IGMPSPNOOPING ROUTERMODE コマンドを追加しました。これにより、All Group に登録するマルチキャストグループアドレスを指定できるようになりました。

3 本バージョンで仕様変更された機能


ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl01 から 2.6.2 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の仕様変更が行われました。

3.1 スパニングツリープロトコル

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」


BPDU サイズを 64 Byte から 69 Byte に変更しました。

3.2 ハードウェアパケットフィルタ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルタ」


IPSADDR、IPDSCP、IPTOS のいずれかを条件に含むハードウェアパケットフィルタが、スイッチ本体（CPU）発の packets にも適用されるようになりました。

3.3 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御（OSPF）」


OSPF パケットの IP TOS 優先度（Precedence）ビットに、「Internetwork Control」を示す 110（2 進）をセットするよう仕様変更しました（以前は 000（2 進））。

3.4 PIM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

SHOW PIM コマンド（COUNTERS オプション）の表示項目に、新しいカウンター inUnknown と badUnknown が追加されました。

3.5 VRRP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

本製品がマスターのときにリンクダウンが発生した場合、VRRP の状態を MASTER から INITIAL に戻すことで、再リンクアップ時に ARP パケットが送信されるようになりました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl01 から 2.6.2 pl06 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 DESTINATION=NVS のログ出力先定義において、MESSAGES パラメーター（保存するメッセージの最大数）を設定しても、指定した数値以上のメッセージが保存される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.2 CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.3 DISABLE SSH USER コマンドの実行時、「Operation Successful」メッセージが 2 度表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.4 L3 テーブルへのエントリ追加・削除時にメモリーリークの可能性がありましたが、これを修正しました。
- 4.5 CPU からスイッチチップにパケットを転送するとき、転送用キューへの格納時にスイッチチップがハンガアップすることがありましたが、これを修正しました。

- 4.6 ポートランキング使用時、送出ポートの決定に用いるハッシュ値によってコラプションが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.7 GBIC モジュール AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G8ZX を装着したポートをオートネゴシエーションに設定した状態で再起動するとリンクアップしないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 トランクポートをいったんディセーブルにした後、再度イネーブルにしても通信が再開されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 トランクポート上でスパンニングツリープロトコルが動作しているとき、非マスターポートのリンクダウン→リンクアップが起こると、以後そのポートに割り振られたパケットの転送が行われなくなっていました。これを修正しました。
〔「マスターポート」はトランクグループ内で最も番号の小さいポート、「非マスターポート」はそれ以外のポートを示します〕
- 4.10 ポート帯域制限（送信レート上限値）の設定を行っても、システムを再起動すると帯域制限が機能しなくなっていました。これを修正しました。
- 4.11 MAC アドレス VLAN 使用時、内部 VLAN テーブルのエントリー数が制限値を超えたときに不正な動作をすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.12 STP が無効になっているポートの所属 VLAN を変更したときに Topology Change を発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.13 STP の動作モードを変更した場合、および、DISABLE STP PORT コマンドに続いて ENABLE STP PORT コマンドを実行した場合、ARP キャッシュからスタティックエントリーが削除されていましたが、これを修正しました。
- 4.14 SET STP コマンドを DEFAULT オプション付きで実行すると、STP が無効なポートで通信ができなくなっていました。これを修正しました。
- 4.15 クラシファイアの IPPROTOCOL パラメーターの値が、CREATE CONFIG コマンドで正しく保存されませんでした。これを修正しました。
- 4.16 ハードウェアパケットフィルター、ポリシーベース QoS において、内部テーブルの利用効率を改善し、より多くのエントリーを追加できるようにしました。
- 4.17 QoS ポリシーに多数のクラシファイアを追加した場合、リポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.18 QoS トラフィッククラスの MINBANDWIDTH（最小帯域幅）に MAXBANDWIDTH（最大帯域幅）よりも大きな値を設定しようとした場合に、エラーメッセージが表示されるようにしました。

- 4.19 QoS トラフィッククラスの MAXBANDWIDTH (最大帯域幅)、MINBANDWIDTH (最小帯域幅) に無効な値「NONE」を設定しようとした場合に、エラーメッセージが表示されるようにしました。
- 4.20 DELETE SWITCH HWFILTER コマンドでフィルターエントリを削除できないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 PROTOCOL=IP または IPX を条件に含むクラシファイアを、DPORT=ALL でハードウェアパケットフィルターに追加した場合、IP、IPX 以外のパケットにもマッチしていましたが、これを修正しました。
- 4.22 受信した IP パケットの終点アドレスが、自インターフェースに直結されたサブネットのネットワークアドレスだった場合にレポートしていましたが、これを修正しました。
- 4.23 ダウンした IP インターフェース宛でのディレクティブブロードキャストパケットを受信すると、メモリーリークを起こすことがありましたが、これを修正しました。
- 4.24 ネクストホップ未解決 (ARP) の IP 経路が 16 個以上登録された場合にレポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.25 IP インターフェースに対して、クラス標準でないネットマスクを設定している場合、標準マスク時のディレクティブブロードキャストアドレス宛パケットを正しくルーティングできませんでした。これを修正しました。
- 4.26 RIP バージョン 1 使用時、RIP インターフェースが 3 つ以上ダウンしている状態でスイッチ本体 (CPU) 宛での通信を行うと、アップデート (Update) タイマーの間隔でタイムアウトが発生していましたが、これを修正しました。
- 4.27 受信した RIP パケットの送信元アドレスが受信インターフェースのネットワークアドレス範囲に収まっていない場合でも、該当パケット内の経路エントリを経路表に登録していましたが、これを修正しました。
- 4.28 OSPF において、自分自身が作成したネットワーク LSA を他のルーターから受信しても、該当 LSA のシーケンス番号を増分して再送信しませんでした。これを修正しました。
- 4.29 OSPF において、LS age=3600 (MaxAge) の LS Update パケットを送信した後に、LS age が一致しない (3600 でない) LS Ack を受信した場合でも該当経路を削除していましたが、これを修正しました。
- 4.30 BGP-4 において、受信した経路の NEXT_HOP 属性値が自インターフェースのアドレスと一致している場合、該当属性が構文的に正しいにも関わらず、NOTIFICATION (エラー) メッセージを送信していましたが、これを修正しました。

- 4.31 BGP-4において、ダウンした経路の取り消しをピアに通知した後、該当経路をBGPの経路表から削除する前に同経路が再びアップしても、その経路をピアに再広告しませんが、これを修正しました。
- 4.32 BGP-4において、外部ソースから経路情報を取り込むよう設定している場合（ADD BGP IMPORT）、優先度最高の経路がダウンしても、2番目の経路を広告しませんが、これを修正しました。
- 4.33 自インターフェースのアドレスを持つARPパケットを受信した場合、これをARPキャッシュに登録していましたが、このようなパケットを受信した時はARPキャッシュに登録せず、ログに記録するようにしました。
- 4.34 スタティックARPエントリを登録したポートでケーブルを抜き差しすると、該当アドレス宛のユニキャストパケットがフラディングされていましたが、これを修正しました。
- 4.35 VLANインターフェースにIPアドレスを設定したとき、ARPキャッシュにIPアドレス255.255.255.255のエントリが登録されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.36 DHCP/BOOTPリレー使用時、DHCPパケット、BOOTPパケットのパケット長を正しくチェックするようにしました。本バージョンより、DHCPパケットは243 Byte以上、BOOTPパケットは300 Byte以上のときだけリレーします。
- 4.37 ADD IPV6 6TO4 コマンドで6to4トンネルインターフェースを作成したとき、「v6 over v4 tunnel successfully」と表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.38 ADD IPV6 6TO4 コマンドで同じIPアドレスを持つ6to4トンネルインターフェースを複数作成しようとした場合に、エラーメッセージが表示されるようにしました。
- 4.39 同一コストのIPv6経路（スタティック）が複数存在する場合、IPv6パケットのルーティングが正しく行われないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.40 ADD IPV6 ND コマンドが動作しませんが、これを修正しました。
- 4.41 PIMとDVMRPを両方とも有効にしている場合、PIM側インターフェースからDVMRP側インターフェースにマルチキャストパケットが転送されませんが、これを修正しました。
- 4.42 IGMP Snooping無効時、クライアントからIGMP Reportメッセージを受信しても、該当ポートをDVMRPの転送表（転送キャッシュ）に登録しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.43 PIM-SM使用時、多数のマルチキャストグループにJoinが起こるとリポートすることがありましたが、これを修正しました。

- 4.44 IGMP が有効で、IGMP Snooping が無効のとき、マルチキャストデータがフラッディングされませんでした。これを修正しました。
- 4.45 IGMP Snooping において、224.0.0.X (ルーターパケット以外) 宛てのマルチキャストパケットを受信すると、All Group エントリーを作成していましたが、これを修正しました。
- 4.46 IPv6 パケットのヘッダー内の PadN と Router Alert の順序によっては、パケットフォーマットを不正と判断し MLD Snooping テーブルにエントリーを追加しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.47 SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Apprule の Number Hits が正しくカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.48 ファイアウォール有効時、Record Route または Time Stamp オプション付きの IP パケットを受信すると同じログを複数記録していましたが、これを修正しました。
- 4.49 VRRP において、バーチャル IP アドレスを実際に保有している場合 (物理インターフェースの IP アドレスとバーチャル IP アドレスが一致している場合)、起動時に同 IP アドレスに対する ARP Request を送信しませんでした。これを修正しました。
- 4.50 DELETE DHCP POLICY コマンドが動作しませんでした。これを修正しました。
- 4.51 DHCP サーバー機能使用中に DELETE IP INTERFACE コマンドを実行すると、同コマンドを実行したとは別の VLAN において、DHCP クライアントが IP アドレスを取得できなくなる場合があります。これを修正しました。
- 4.52 DHCP サーバー機能で IP アドレスを静的に割り当てるよう設定していても、再起動すると動的にアドレスが割り当てられていましたが、これを修正しました。

5 以前のバージョンで修正された項目に関する補足・訂正

次の項目はソフトウェアバージョン **2.5.1 pl15** のリリースノートに「修正された項目」として記載されていますが、その後の検証によって、**2.5.1 pl15** では特定環境下で現象が起こる可能性が残っていることが判明しました。本件は **2.6.2 pl01** で完全に修正されました。

- インターフェース経路をダイナミックルーティングプロトコル経由でも学習している場合、該当するインターフェース経路がダウンして再度アップすると、IP パケットを正しくルーティングできないことがありましたが、これを修正しました。

また、次の項目はソフトウェアバージョン **2.5.1 pl15** のリリースノートに「修正された項目」として記載されていますが、文中の「AS 外部経路」は「OSPF 経路」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。なお、本件は **2.5.1 pl15** で修正されています。

- OSPF において、他のルーターから受信した AS 外部経路のネクストホップと受信インターフェイスが同一サブネットになる場合、ネクストホップの ARP 解決がなされていないと該当経路が IP の経路表に追加されませんでした。これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン 2.6.2 pl06 には、以下の制限事項があります。

6.1 コンパクトフラッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

SHOW CFLASH コマンドでコンパクトフラッシュカードのシリアル番号を表示すると、表示されたシリアル番号の前に不要なスペースが入ります。シリアル番号は正しく表示されていますのでスペースは無視してください。

6.2 NVS 上のシステムファイル保護機能について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後など、prefer.ins がフラッシュメモリー上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、ファームウェア構成情報が読み込まれず、EPROM からシステムが起動します。CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後は、SET INSTALL コマンドでリリースファイル（とパッチファイル）を指定しなおしてください。

6.3 SHOW USER コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ユーザー認証データベース」

Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになります。

6.4 SHOW USER RSO コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「セキュリティ」

SHOW USER RSO コマンドの「Failed logins」欄と「Last failed login」欄に値が表示されないことがあります。


6.5 ログについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。
- ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。
- ログメッセージフィルターの設定（ADD LOG OUTPUT コマンド）において、複数のフィルターエントリーで比較演算子「!」（等しくない）を使用すると、「!」を使用したエントリーはすべて機能しなくなります。


- ログメッセージフィルターの設定 (ADD LOG OUTPUT コマンド) において、MODULE パラメーターに SWITCH を指定しても (MODULE=SWITCH)、スイッチングモジュールのログが出力されません。これを回避するには、スイッチングモジュールの ID である 87 を指定してください (MODULE=87)。

6.6 トリガーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」


- CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数 (count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。
- メモリトリガーが正しく動作しません。

6.7 SNMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- dot1dStpRootPort, dot1dStpPort, dot1dTpFdbPort, dot1dTpPort のポート番号が正しく表示されません。
- ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。
- イーサネット MIB の dot3StatsExcessiveCollisionFrames, dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。

6.8 NTP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

- Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。
- NTP による時刻取得ができなくなることがあります。そのようなときは、RESET NTP コマンドを実行してください。

6.9 SET TELNET コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TELNET コマンドをパラメーターなしで実行すると (単に「SET TELNET」と入力すると)、SHOW TELNET コマンドと同じ動作になります。

6.10 SET TTY コマンドの PAGE パラメーターについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

6.11 RESET SWITCH PORT コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

RESET SWITCH PORT コマンドは、1000BASE-SX ポート、および AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G8T、AT-G9ZX の GBIC ポートに対しては使用できませんが、現状これらのポートに対しても本コマンドがエラーにならずに受け付けられます。

6.12 ポートランキングについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ポートランキングには以下の制限があります。なお、下記文中の「マスターポート」はリンクグループ内で最も番号の小さいポートを示します。

- ポートランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンしている間にマルチキャストグループへの Join が起こり、その後マスターポートがリンクアップすると、マスターポートと該当マルチキャストグループのメンバーポートにおいて、一時的にパケットストームが発生します。
- ポートランキングとマルチキャストルーティング (DVMRP または PIM) の併用時、マスターポートのリンクダウン→リンクアップが起こると、以後マルチキャストパケットが複製して転送されるようになります。このようなときは、DVMRP または PIM をいったん無効にし、再度有効化してください (DISABLE DVMRP → ENABLE DVMRP、または、DISABLE PIM → ENABLE PIM)。

6.13 ポートミラーリングについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ソースポートの所属 VLAN から送信される予約 IP マルチキャストパケット (OSPF、IGMP、PIM 等) がミラーポート自身からも送信されます。

6.14 ポートセキュリティーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」


INTRUSIONACTION=TRAP に設定したとき、一度 SNMP トラップを送信すると、その後不正パケットを受信してもトラップを送信しなくなります。

6.15 MAC アドレス VLAN について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」


MAC アドレス VLAN 使用時、「vlanPortAddRule: all ports already associated with rule」というメッセージが表示されることがありますが、ポートの割り当ては正しく行われていますので、このメッセージは無視してください。

6.16 スパニングツリープロトコルについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」


ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になります。

6.17 ポリシーベース QoS について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポリシーベース QoS」

- QoS 対象スイッチポートに設定されている通信速度と、実際の通信速度が同一であるにもかかわらず、Warning（警告）のメッセージが表示される場合があります。この警告は無視してください。
- ADD QOS FLOWGROUP コマンドで同じエントリーを複数入力できてしまいます。また、その後 SET QOS PORT コマンドを実行するとリポートすることがあります。同じエントリーを複数入力しないようにしてください。
- CREATE/SET QOS TRAFFICCLASS コマンドの MINBANDWIDTH、MAXBANDWIDTH パラメーターに 64Kbps の倍数でない値を指定した場合、内部的な設定値は 64Kbps の倍数になるよう丸められますが、そのことを示すメッセージが表示されません。また、SHOW QOS TRAFFICCLASS コマンドの「Min Bandwidth」、「Max Bandwidth」欄には、丸めた後の実際の設定値ではなく、コマンド入力時に指定した値が表示されます。

6.18 ハードウェアパケットフィルターについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

DPORT にポート 1 を含むハードウェアパケットフィルターを定義している場合、ARP、RIP1 など、本製品（CPU）が処理すべきブロードキャストパケットが CPU に転送されず、結果として処理されないことがあります。

注：ユニキャスト、マルチキャストパケットでは発生しません。

この現象は、次の 3 条件をすべて満たすときに発生します。

- ・ 受信ポートと同一 VLAN 内に、リンクアップしているポートが 1 つしかない。
（VLAN 所属ポートが 1 つだけの場合、あるいは、所属ポートが複数あってもリンクアップしているポートが 1 つだけの場合、など）
- ・ DPORT に 1 を含むハードウェアパケットフィルターが定義されている。
（DPORT=1、DPORT=1-3.5、DPORT=ALL のいずれも当てはまります）
- ・ 受信したブロードキャストパケットが、2 のフィルターの DPORT を除くすべての条件にマッチする。
（本現象は、該当するフィルターのアクションが FORWARD、DISCARD のどちらであっても発生します）


この現象を回避するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- ・ 該当パケットにマッチする ACTION=FORWARD,COPY のフィルターを、前記条件 3 のフィルターよりも小さなルール番号 (POSITION) で作成する。このとき、DPORT=ALL を指定する。

注: FORWARD,COPY アクションはサポート対象外のパラメータ値です。本現象を回避する以外の目的では使用しないでください。


- ・ 受信ポートと同一 VLAN 内に、リンクアップしているポートが 2 つ以上存在するような構成をとる。
- ・ DPORT に 1 を含むフィルターを使用しない。

6.19 ICMP メッセージについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

6.20 TRACE コマンドについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」


SET TRACE コマンドのパラメータに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

6.21 IP 統計情報の表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

- ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。
- ファイアウォール有効時、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター (ifInPkts, ifInBcastPkts, ifInUcastPkts, ifInDiscards) に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。
- IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

6.22 ICMP Redirect を引き起こす IP パケットについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Redirect メッセージを送信しなくてはならないような IP パケットを大量に受信した場合、パケットの送信または受信ができない状態になることがあります。

6.23 IP インターフェースについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」


ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

6.24 ネクストホップが自分自身の経路について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ネクストホップが自インターフェイスアドレスと一致している経路を IP の経路表に登録してまいります。

6.25 OSPF について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

フラグメント化された OSPF パケットを受信すると、メモリーリークが発生します。

6.26 BGP-4 について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

- RIP 経路を BGP-4 で配布している場合、RIP 経路のメトリックが 16 になっても、ただちに経路の取り消しをピアに通知しません。該当 RIP 経路がシステムの IP 経路表から削除されたときにはじめて通知します。
- ADD BGP NETWORK コマンドまたは ADD BGP IMPORT コマンドで MED 値をセットするルートマップを指定していても、E-BGP ピアには MED 値が通知されません。
- 特定アドレス宛ての経路として、ルートマップの設定されている経路と、Withdrawn 状態の経路の 2 つが BGP-4 の経路表に登録されている場合、同じアドレス宛ての経路情報を受信するとレポートします。

6.27 DNS サーバーアドレスの動的取得について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」


ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されません。

6.28 DNS キャッシュについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

6.29 スタティック ARP エントリーについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

マルチホーミングした IP インターフェース上にスタティック ARP エントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定するとレポートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

6.30 UDP ブロードキャストヘルパーについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「UDP ブロードキャストヘルパー」

UDP ブロードキャストパケットの転送先は 32 個まで設定可能ですが、コマンドを入力した後、設定を保存して再起動するまでは、28 個目までしか機能しません。また、設定保存後に再起動しても 31 個目までしか機能しません。

6.31 IPv6 の PING について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- PING コマンドで IPv6 のグローバルアドレスを指定し、なおかつ、送出インターフェース名を指定すると、レポートすることがあります。グローバルアドレス指定時は、送出インターフェースを指定しないでください。
- IPv6 over IPv4 トンネルインターフェース使用時、PING コマンドで IPv6 アドレスを指定すると、始点アドレスにループバックアドレス (::1) やトンネルインターフェースのリンクローカルアドレスがセットされることがあります。

6.32 SET IPV6 PREFIX コマンドについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、設定保存後に再起動すると正しく機能しなくなります。

6.33 Neighbour キャッシュについて

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。
- RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行すると、スタティック登録した Neighbour キャッシュエントリも削除されます。
- Neighbour キャッシュが空のとき、リンクローカルアドレス宛てでサイズが 35000 Byte 以上の IPv6 PING パケットを受信するとレポートします。

6.34 DVMRP について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」

SHOW DVMRP コマンドの COUNTERS オプションにおいて、Prune パケット送信数 (Send Pkts) に実際の 2 倍の値が表示されます。

6.35 PIM-DM について

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリが削除されても、PIM の経路表からはエントリが削除されません。


- Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッディングすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください（デフォルトは 210 秒）。
- PIM-DM 有効時、Prune Limit Timer 満了後にマルチキャストデータを受信しても、Prune メッセージを送り出しません。この場合、1 分後に Prune メッセージが送出されるまで、マルチキャストデータのフラッディングが続きます。
- PIM-DM 使用時、Prune 状態でないにもかかわらず、Graft メッセージを送出することがあります。ただし、余計な Graft メッセージを出すだけで、運用上の問題はありません。

6.36 PIM-SM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」


- インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。
- PIM-SM とスタティック IGMP の併用時、スタティック IGMP グループエントリーからポートメンバーを削除した後にマルチキャストパケットを受信すると、(S,G) Join メッセージを送信しなかったり、不正な定期 Join メッセージを送信することがあります。これを回避するには、スタティック IGMP グループエントリーからポートメンバーを削除した後、設定を保存して再起動してください。

6.37 IGMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。
- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。
- IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがあります。
- Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新しません。

6.38 IPX について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPX」


IPX インターフェースの構成ポートがすべてリンクダウンしても、SHOW IPX CIRCUIT コマンドの表示項目 Link State に反映されません（表示上は「up」のまま）。このようなときは、いったんケーブルを抜き差しすると正しく表示されるようになります。

6.39 ファイアウォールについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

- 不正な ACK 番号を持つ TCP セグメントに対しても ACK を返します。
- ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。
- PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが2 ずつカウントされます。
- PRIVATE 側に設定した Deny ルールでパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Number Dropped Packets カウンターがカウントされません。

6.40 VRRP について


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」

CREATE VRRP コマンドの PORTMONITORING を ON に設定した場合、VR に所属するすべてのインターフェースの PRIORITY が 0 になると、短期間に大量の VRRP パケットが送出されてしまいます。

7 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足


付属の「取扱説明書」、および「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6」(Rev.F)の補足事項です。

7.1 HTTP サーバー（サポート対象外）について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。


7.2 ポートのリンクアップ時のログ表示について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

スイッチポートの速度が変わったときに、SHOW LOG コマンドで表示されるログに、下記のようなメッセージが記録される場合がありますが、動作に問題はありませので、このメッセージは無視してください。


Parameter EGRESSLIMIT, value has been rounded to XXXX

7.3 SNMP について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SHOW BUFFER コマンドの表示とホストリソース MIB の hrStorageUsed では、メモリー使用量が若干異なります。これは、SNMP Get Request への応答にもメモリーを使うためです (hrStorageUsed の値は、このときの消費量を差し引いた値になります)。

7.4 ポートミラーリングについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

本製品は、受信パケットのミラーリングだけが可能です。送信パケットのミラーリングには対応していません。以前のドキュメントには記載されておりませんが、本仕様は 2.6.2 p106 を含むすべてのソフトウェアバージョンに適用されます (「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.5」(Rev.C) において追記されました)。


ソースポートの設定をするときは、SET SWITCH PORT コマンドの MIRROR パラメーターに RX か NONE のどちらかを指定してください。TX や BOTH を指定してもエラーにはなりません。これらを指定した場合の動作はサポート対象外となります。TX と BOTH は指定しないでください。

未サポートコマンドおよびパラメーターについては、本リリースノートの「8 未サポートコマンド (機能)」をご参照ください。また、設定コマンドの詳細については最新のコマンドリファレンスをご覧ください。

7.5 イングレスフィルタリングについて

本製品はイングレスフィルタリングをサポートしていないため、受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

7.6 STP ドメインの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」

VLAN を「default」以外の STP ドメインに所属させる場合、VLAN にポートを割り当ててから、ADD STP VLAN コマンドを実行してください。ポート割り当て前に ADD STP VLAN コマンドを実行すると、不正な設定がエラーにならないことがあります。

また、VLAN 内に、複数 VLAN に所属するポートが 1 つでも含まれている場合、その VLAN を default 以外の STP ドメインに参加させることはできません。そうした VLAN では、default STP を使ってください (VLAN はデフォルトで default STP 所属となります)。

7.7 スタティックルートの設定について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP (VLAN) インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

7.8 BGP-4 について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAXPREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

7.9 PIM について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」

本製品の ASIC は、OIF から受信したマルチキャストパケットを CPU に転送しないため、OIF からマルチキャストパケットを受信したときでも Assert メッセージは送出されません。このため、隣接ルーターが存在する OIF に対しては、マルチキャストパケットを受信したか否かにかかわらず、Assert メッセージを送出します。

7.10 コンパクトフラッシュカードの取り付けかた

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

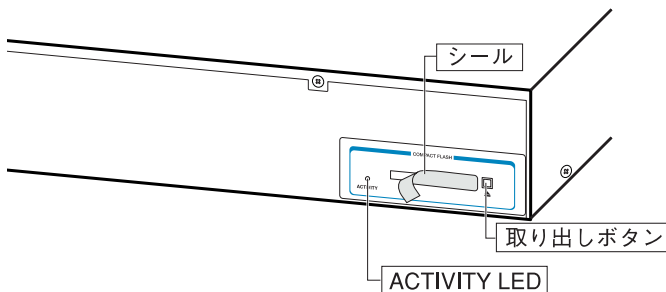
本製品には、オプション（別売）で、コンパクトフラッシュカード（以下、CF カードと省略します）「AT-CF128A-001」が用意されています。外部記録メディアとして、ファームウェアや設定ファイルの保存が可能です。

- ▶ 弊社販売品以外の CF カードでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。
- ▶ CF カードのデータは他の CF カードリーダーでも操作が可能のため、取り扱いには充分ご注意ください。
- ▶ 本製品は FAT16 フォーマットの CF カードに対応しています。FAT32 や NTFS フォーマットの CF カードは、コンピューターで FAT（FAT16）にフォーマットしてからご使用ください。

本製品に CF カードを取り付ける手順は以下にしたがってください。

- ▶ CF カードはホットスワップ対応のため、取り付け / 取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。

1. ご購入時には、CF カードスロットをシーリングしてあります。CF カードを使用する際にはシールをはがしてください。



2. CF カードをスロットにしっかりと奥まで差し込みます（CF カードが挿入されると、取り出しボタンが飛び出ます）。

CF カード使用時の ACTIVITY LED の表示は以下のようになります。

色	状態	表示内容
緑	点滅	CF カード挿入時に一回点滅します。
	点灯	CF カードにアクセスしているときに点灯します。

CF カード挿入時、カードが正しく認識されると、以下のようなメッセージが表示されます。

Info (1106268) : Compact flash card initialisation successful.

CF カードが正しく認識されなかった場合、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

Error (3106300) : Compact flash card initialisation unsuccessful.

さらに、SHOW CFLASH コマンドを使用して、CF カードが正しく認識されているか確認することができます。

(正しく認識されている場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes

.....(省略).....

(正しく認識されていない場合)

.....(省略).....

Card Information:

Hardware detected.....Yes (Invalid)

.....(省略).....

CF カードを取りはずす場合は、取り出しボタンを押して CF カードを引き抜きます。

▲ CF カードへのアクセス中 (ACTIVITY LED 点灯中) に、CF カードを取りはずさないでください。
データが破損する恐れがあります。

CF カード上のファイル操作などについては、コマンドリファレンスをご参照ください。

8 未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。
ALARM, APPIetalk, CLNS, ETH, GARP, GRE, GUI, HTTP, L2TP, LDAP,
LOADBalancer, LB, PIM6, PKI, PPP, RSVP, SA, SSL, STAR, SYSTEM SYSR
- 以下のコマンド（パラメーター）
下線が引いてあるコマンド（パラメーター）は「コマンドリファレンス 2.6」（Rev.F）に記述があります。
COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT
SET SYSTEM TEMPTHRESHOLD
TRACE [ADDRONLY]
PING [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS]
[SOSIADDRESS]
SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [JUMBO] [MIRROR=(BOTH;TX)]
[SPEED=(10MHAUTO;10MFAUTO;100MHAUTO;100MFAUTO;
1000MHAUTO;1000MFAUTO;1000MHALF)]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
SET SWITCH BLADE
RESET SWITCH BLADE
SHOW SWITCH HOTSWAP
CREATE/SET LOG OUTPUT [MAXQUEUESEVERITY] [QUEUEONLY]
ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER=0..299
ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/SET/SHOW IP SA
SET IP INTERFACE [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER]
SHOW IP CACHE
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING

```
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
CREATE QOS TRAFFICCLASS [PRIORITY]
CREATE QOS FLOWGROUP [PRIORITY]
CREATE QOS TRAFFICCLASS [STATUS]
SET QOS PRIORITYQUEUEING
SET QOS VLANQUEUEMAP
SET QOS TRAFFICCLASS [STATUS]

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE ENCO KEY TYPE={DES;3DES2KEY;3DESINNER;GENERAL} [MODULE]
[ {RANDOM;VALUE} ] [FORMAT={HEX;NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;
USER;UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ADD/DELETE/SHOW IPX EXCLUSION
ADD/DELETE/SHOW IPX INCLUSION
SHOW IPX CACHE
SHOW IPX CALLLOG
```

9 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6 (J613-M6933-01 Rev.F)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6933-01 Rev.F」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

